KIZUNA

きずな

No. 165
2023.12.1

日本カトリック海外宣教者を支援する会

巻頭言

先住民族の人々からいただいたこと

マリアの宣教者フランシスコ修道会　青　木　青　子

この静かな村での足かけ 11 年の宣教体験は、神様が貧しい人々を特別に祝福され、導いておられることを実感する日々でした。この村に住む先住民族の人々たちからいただいたこと学んだことを分かち合いたいと思います。

1　驚くほど寛容な人々　自然との共生の中で災害に見舞われたり、天候に左右されて暮らしてきたので、生活の不便さや突然の変化を文句も言わずに受け容れられることに感心します。昨年の冬、雨不足のため山の湧水が枯れてしまい、私達の共同体は水の確保に時間と労力を奪われキリキリしていました。私たちが困っているのを知って、足場の悪い崖を歩いて水道管の修理をしてくれたのですが、後でたくさんの家庭が一年中水不足であることを知り、貧しさを生きるはずが便利さを追求している私達の姿をみせつけられたものです。貧しいのに自分で育てた野菜や狩りで仕留めた“動物”（名前を聞いてもわからない！）を差し入れてくれたりと私達は生活面でお世話になりっぱなしです。でも突然自分の子供が友達を連れてきて狭い家に何日も寝泊まりしたり、集まりに遅刻をして迷惑をかけられても一言も文句を言わない、言えないという欠点を抱えて我慢してしまう人たちでもあります。

もくじ

巻頭言 …… 1
第 90 回運営委員会議事録 …… 2
宣教者からのお便り …… 3
ザ・メッセージ・ＥＣＨＯ …… 6
宣教者のお話を聞く会 …… 12
クリスマス特集 …… 13
連載「海外宣教」 …… 14
新しい支援者・事務局より …… 16

2　教会に集う青年たち　その昔高校生中心の青年会が教会に寝泊まりした最後の晩に、私がタバコの小箱を見つけて誰のものかと問い詰めたら、30 人の中高生が誰も口を開かず、2 時間その部屋で本人が名乗るのを待ったことがあります。最後に「もう本人は十分の罰を受けたから責めないけれど、私は騙されていた気持がして悲しいよ。」と伝えて部屋を出た後、私が信頼を置いていた三人の高校生が、泣きながら「シスターごめんなさい」と追いかけてきました。この体験は私が青年たちともっと本気で関わるきっかけを作ってくれました。青年会では性の問題と教会の教えを学び話し合う機会を設けています。いわゆる同性愛志向の青年がなぜかどの先住民族も多い台湾です。私達の教会でもたくさんの青年がその問題を抱えています。教会の中で受け入れられて、活躍する場もあり青年会という共同体は育ってきているのですが、個人としては困難にぶつかると信仰がまだそれを克服する力にはなっていないのが現実です。でも神様から離れたらだめなんだということは肝に銘じていて、転んだら赦しの秘跡を受けてまた頑張る青年たちが大人になってゆくのを見守っております。時には騙されていますが、それを赦すチャレンジを神様からいただいています。

3　自分たちの文化を大切にする教会　先住民族は今でも自分たちの言語を生活の中で使っています。でも若い世代にとっては中国語が自分たちの言語であり、大人たちが話す言葉（母語と呼んでいます）はまるで外国語。学校や外の職場で母語のアクセントに影響された中国語を話せば笑われる事もあって、母語を学ぶ意欲がないのが現実です。この数年政府が先住民族の文化の継承を推進していて、教会でも典礼やそれぞれの集まりで母語を使用するように推奨されています。ミサや聖書の中で日本語がたくさん使われていることもあって、私も一緒に聖歌を通じて学んでいます。大人たちが自分たちの文化を誇りとしているのを見るにつけ、自分のアイデンティティを肯定するためにも若い世代がこの文化を守ることを応援してゆきたいと思っています。

□■□ 第 90 回運営委員会議事録 □■□

日　時：2023 年 9 月 9 日（土）　13:00 ～ 14:00

場　所：聖フランシスコ修道会　修道院 2 階会議室

参　加：運営委員 10 名　欠席 2 名

議　事

Ⅰ.「きずな」164 号について

編集者から→最後のページの「新人会員」を「新しい支援者」に変更。

・「宣教者のお話を聞く会」のチラシを刷り込み PR。 山野内司教連載の件は初めに場所を取っておけなくて、ぎりぎりに急遽字を小さくして全部載せることができた。

・見えないくらいに小さく 2022 年度の支援者を掲載（匿名希望者は削除）

Ⅱ.「きずな」165 号について

巻頭言：シスター青木青子（マリアの宣教者フランシスコ修道会）にお願いした。

次回のための記事を募集中、ご紹介願いたい。

Ⅲ. 援助申請

① モンゴル　シスター小島華子（サレジアンシスターズ）より

新青少年センター校庭に運動器具を設置する費用が申請された

運動器具…… 5 種…… ＄1,100.00

運動器具…… 1 種…… ＄350.00

設置費…… ＄80.00　　合計＄1,530.00

☆子供たちのみならず、近隣の人にも解放出来るとのこと。

承認され援助が決定された。

Ⅳ. その他

・国内「きずな」164 号　業者発送　　約 2,717 通

・国内「きずな」事務所発送 9 月 1 日　　49 通　ボランテイア 2 名

・海外「きずな」事務所発送 9 月 1 日　　101 通　ボランテイア 2 名

・海外「雑誌」　事務所発送 7 月 11 日　　48 通

事務所発送 9 月 1 日 2 冊ずつ 100 件パウロ会からの「家庭の友」を同封

・お話会について来週 9 月 16 日 13 時半から　聖ヨゼフ修道院 1 階ホール

講師：シスター延江由美子（メデイカル・ミッション・シスターズ）

・会則の確認　特に大きな変更はなかったが運営委員と一文字変更 2 項目改正。

・事務所の件　スタッフが残念ながら体調不良のため 8 月 22 日退職

次回運営委員会　12 月 9 日（土）　12：00 ～

宣教者からのお便り

南スーダン　◆ジュバ◆

いつもあなた方の心のそばにいる

イエスのカリタス修道女会　下　崎　優　子

2019 年日本に教皇様がいらしたとき、このきずなに一度南スーダンの事について書きました。今回 2 回目ですが、何のめぐりあわせなのか、今度は南スーダンへ教皇様がいらした年にこの記事を書くことになりました。

南スーダン入国は、教皇フランシスコの強い望みでした。しかし、色んな理由から何年も先延ばしになっていました。彼は南スーダンに来ることが出来た事に、大きな喜びを表していま

した。ここでは詳しく書けませんが、彼が南スーダンへ来ることは、簡単なことではなく、策略と言ったら聞こえが悪いですが、色んな策略をして、やっと公式訪問が実現したからです。

訪問のいくつかのプログラムの中から、一つ紹介しましょう。教皇様は、教会に国内難民キャンプの人々との出会いの時間を作るように要請しました。設けられた会場でこの出会いの場が実現しました。プログラムの中で、代表の３人の子供たちが、自分のつらい生活を話し、教皇様にこう言いました。「どうして、僕たちはこんな苦しみに遭わなければならないのか！」と。教皇様は、子どもたちを抱きしめて、そして、こう言葉を残していきました。「私は遠い国にいますが、いつもあなた方の心のそばにいる」と。それから、教皇様は昨年数名の枢機卿を任命しました。その中に初の南スーダンから枢機卿が選ばれました。

今年は、南スーダン大統領選挙が行われます。南スーダン独立から 13 年の時が立ち、この間に２度の内戦が勃発し、今年の大統領選挙ではまた内戦が起こるのではないかとの懸念があります。南スーダン建国と共に、私たちはこの国へ宣教に入りました。文章では書く事の出来ない様々なことがあり、今も続いています。それは、正義と正義のぶつかり合い。教皇フランシスコの訪問、カトリック教会に枢機卿の誕生、大統領選挙。この国がこれからどうなっていくのか、神のみぞ知ることです。

アメリカの神学者、ラインホールドニーバーの祈りを私は祈っています。この祈りはこの国に必要だからです。そして、このきずなを手にする皆様も南スーダンのために祈っていただけたらと思います。「神よ、天にまします父よ、私たちに変えられないものを受け入れる心の平穏を与えてください。変えることのできるものを変える勇気を与えてください。そして、変えることのできるものとできないものを見分ける賢さを与えてください。われらの主イエス・キリスト。アーメン。」

モンゴル　◆ゾーンモド◆

教皇様をお迎えして

サレジアン・シスターズ　小　島　華　子

「教皇がモンゴルを訪問する」というニュースは、全世界の人々の興味を引いた大きな出来事だったのではないでしょうか。モンゴル国はバチカン市国から 6.850（6.852）km も離れており、いまだに地図上でどこに位置するかあまり知られていない国。そしてロシアと中国という大国に挟まれた小さな国。だれがこの司牧訪問を予測することができたでしょうか？私はこのニュースを聞いて大興奮すると同時に教皇様が「待っていないで出向いていきなさい！郊外までも！」とおっしゃったことを思い出しました。86 歳という高齢にもかかわらず飛行機で 10 時間もかけて私たちのもとを訪れ、有言実行の模範を示してくださいました。

この日を迎えるにあたって各分野での準備委員会を結成し、情報共有を入念にすると同時にノベーナの祈りを全員で捧げつつ準備を進めてきました。モンゴルカトリック教会は 74 人の宣教師団と 1,300 人ほどの信徒で形成される小さな共同体ですので誰一人として蚊帳の外から

見ることなく全員が準備に参加できたことは一人一人に忘れられない思い出となると同時に私たちの共同体をより一層一致させ、団結させる良い機会になったと思います。

９月１日の到着から４日の出発まで youtube のライブで教皇様の訪問の様子を見ることができました。教皇様を乗せた飛行機がチンギスカン空港に到着した時、感動のあまり自然と涙が溢れてきました。その時「教皇様がいらっしゃってこんなに感動しているのなら、神様と出会ったときはどれほどの感動に包まれるのだろう！」と心が震える体験をしました。

私は教皇様の食事係でしたのでずっと司教館に留まっていなければならず、残念ながらどの行事にも参加することができませんでした。これは大きな犠牲でしたが３日間教皇様のプライベートのミサに参加し、歌をリードし第一朗読や答唱詩編を読むなど特別な経験をすることができ、この犠牲以上に大きなお恵みを頂きました。

私がこの訪問を準備しつつ神様に願っていたことが２つあります。１つ目は自分の任された使命をよく果たすことができるように。私たちが準備する食事で教皇様と他の方々が楽しく幸せなひと時を過ごせるように。２つ目はこの訪問を通してモンゴル人が正しくカトリック教会を理解することができるようにということです。モンゴル人の多くは宗教の違いを知りません。仏教とシャーマニズムはもともとある宗教ですが、カトリック、プロテスタント、新興宗教、イスラム教は全て１つの宗教と捉えています。ですから 30 年以上たった今でも教会に来るのを怖がったり嫌ったり、私が住んでいるゾーンモドでは私を白い目で見る人が沢山いま

教皇とのご挨拶

食事係として活躍

す。カトリック教会を正しく理解すれば、この広い大地に天地の創造主であり唯一である神様の愛をより一層広めることができると確信しています。教皇様がモンゴルに残してくださった言葉、優しさ、そして私に向けてくださった笑顔をこれからの私の宣教生活のエネルギーにしていきたいと思います。

グアテマラ　◆コロンバ◆

勉強会のその後

ベリス・メルセス宣教修道女会　眞　神　シ　ゲ

何とか８月９月を乗り越えて、勉強会は、進んでいます。10 月５日（木曜日）にこどもの日を祝いました。８時から 10 時半まででした。

30 人以上の子供で賑わいました。中には車椅子での参加者もいました。（少し大きい子でした）。朝食もいつもより豪華版でした。サンドイッチ、カップケーキ、豆乳、これにお土産も付いていました。

４人の大学生も子供たちを喜ばせるプログラムを色々考えていました。朝食係の婦人たちも美味しいサンドイッチを作ってくださいました。お天気にも恵まれた良い日を過ごす事ができました。お陰様で、順調に進んでいる勉強会です。皆様からの援助を心より感謝しております。何時も皆様の為に祈っています。

プレゼントをもらう子供たち

勉強会に参加する方々

若者に混じって、86 歳の眞神

ザ・メッセージ（海外短信）

＊ペルー　リマ

イエスのカリタス修道女会　中村英子

９月 14 日（木）午後に、貴会からの贈り物（送りもの）「きずな」と「カトリックの冊子」がたくさん、ポストに投函されていました。ずっしりと重い冊子の束を、大急ぎで修道院の居間に運び入れました。ありがとうございました。今しばらくは、これらの冊子を回し読みし、日本の教会のこと、世界のカトリック教会のことを分かち合う日が続きます。

次にボリビアに住んでいるシスターたちのもとに機会がある時に届けることにいたします。ボリビアはいまだに郵便事情が悪く、送ることも受け取ることもできない現状です。

ペルーは今、暦の上では春が訪れる季節だというのに、特にこの一週間は小雨が降り、肌寒い日々を過ごしています。物価は日ごとに上がり続けており、貧しい人々の生活はこれまでにも増して深刻なものになっています。わたしたちは年々、年を重ねていますが、おかげさまで元気にペルーの街に溶け込んでいます。皆様の上に神様の豊かな恵みが届けられますよう、感

謝のうちにお祈りいたします。

＊北アイルランド

イエスの小さい姉妹の友愛会　添川恵美子

「家庭の友」を受け取りました。 ご親切に大変感謝しております。 私たちをサポートしていただき誠にありがとうございます。日本人の方たちにも読んで頂きます。 皆様お一人おひとりに祈りを捧げます。

＊フランス

シュファイユの幼きイエズス修道会　青木文子

「家庭の友」をお送りくださり、驚きながら拝見しました。10 月 4 日には「きずな」163 号が届きました。いつも読みながら励まされております。感謝して楽しみに読んでおります。

＊モンゴル

サレジアン・シスターズ　小島華子

私はウランバートルからトブ県のゾーンモドに越して来て早、2 年が過ぎようとしています。私が働いている教区の小学校を今年の 6 月で閉鎖し 9 月の新学年度から学童と青少年センターを開くことになりました。学校で勉学についていけない、教師にも見捨てられた子供達、家庭で十分な養育を受けることができない子供たちのために格安で学童を、青少年の視野を広げ興味とスキルの幅を広げるために青少年センターを、庭には運動器具を設置し人々の健康維持を保つために場所を、東屋を設置してお年寄りがともに楽しいときを過ごせる場を提供する計画です。青少年センターでは現在のところ英語と音楽の授業を開始する予定ですが将来的にはダンス教室やカウンセリングルームも設置する予定です。

ここは県庁所在地ですが貧しい人がたくさんいます。小学校しか卒業していないためになかなか就職できずアルコール依存症になる人も沢山います。今回の事業変更によってもっと人々のニーズに応えることができると希望しています。校庭を大々的に変更する予定ですので相当な時間と費用がかかりそうですが、識別を通してこの新事業のイニシアティブを取ってくださる御父がすべてを配慮してくださると信じて、全力を尽くしていきたいと思います。これからもお祈りと応援をよろしくお願いいたします。

＊フランス

シャルトル聖パウロ修道女会　米島幸子

二通の大きな封筒を受け取りました。何でしょう？と開けてみましたら、「家庭の友」が入っていました。久しぶりに日本語の雑誌を手に取り胸が熱くなりました。かねてから興味を持って読んでいた連載も引き続き掲載されていて懐かしく、また日本の写真がきれいな事に感動しました。本当にありがとうございました。

過日はパリの小教区からの巡礼団を修道院にお迎えした時にショファイユの 2 人のスールにお会いし、海外宣教者名簿を見ながら色々話しができました。いつも祈りと支援をありがとうございます。

＊ドイツ　デュッセルドルフ

イエスのカリタス修道女会　シスター一同

大変貴重な「家庭の友」をプレゼントしてくださり、どうもありがとうございました。丁度「すべてのいのちを守る月間」の日々、お陰様で「ラウダート・シー」の学びを更に深めるために活用させていただき実践に繋げたいと励みをいただきました。また、いつも「きずな」を通してご支援を届けてくださり深く感謝申し上げております。どうぞ支援する会のお一人おひ

とりの尊いお命に神様が豊かにお報い下さいますよう、続けてお祈りさせていただきます。

＊マダガスカル

マリアの宣教者フランシスコ修道会　平間理子

こちらは毎日のように停電がありメールの接続が悪く中々メールが出来ず大変失礼致しました。6 月にも「きずな」「カトリック生活」「家庭の友」を受け取りました。ありがとうございました。毎日楽しみに読んでいます。今年、こちらは教会関係に大きな動きがありました。大司教の引退と就任、司教の辞任と就任、10 月には 19 人の教区司祭と 16 人の副教区司祭の就任式その他に各修道会司祭、副修道会司祭の就任式とこちらマダガスカルは修道者の召命が多く、私の修道会も今年は6 人の終生誓願、 3 人の初誓、 7 人の入会者がありましたので最後まで忠実にキリストの後に歩みマリア様に祈りながらキリストの愛を告げ知らせて行くことが出来る様にお祈りください。お祈りのうちに…

＊ブラジル

日伯司牧協会

祝　松尾レオナルド神父卒寿誕生日

8 月 27 日、早朝にも関わらず、遠方からも多くの方々が祝卒寿のミサに集いました。マキシミリアノ小教区はもとより、ビリチバ・ミリン、スザノ、ジュンジアペーバ、サンジョゼ・ドス・カンポ、サン・パウロ、イタベチ、サンタ・イザベル等と神父様が長年、司牧に携わっておられる地方から駆け付けた信徒と聖歌隊の熱い祈りは荘厳な共同司式ミサに和し、祭壇で捧げる奉献の祈りは敬虔で神々しく、神の恵みに満ちた尊い 90 年の祝福の歴史を物語るようでした。ミサ後、サロンに集い、卒寿祝いと主任司祭の誕生祝いに、参加者の拍手と祝福が送られ喜びに賑わいました。

＊ブラジル　タウバテ

日伯司牧協会

マリアの宣教者フランシスコ修道会　シスター佐藤和帰天

1927 年 2 月 14 日東京麻布生まれ、雙葉学園卒。初誓願 1950 年 12 月 15 日。1958 年船でブラジルに到着、1960 年マリリアでの創設を手伝う。社会、宗教面だけではなく教育、経済の面でも日本人とその子孫のために精力的に献身した。1968 年サン・パウロのサウーデの共同体に移り、そこで幼稚園と日本人を対象に働き続けた。1976 年家族とフランシスコ・マリリアの宣教修道女会を訪問する為、初めて日本に休暇帰国。1978 年マリリアに行き、日伯司牧宣教奉仕に専念。2004 年サン・パウロのモーカにある共同体へ移転、間もなくタウバテ市の療養所に移る。2023 年 6 月 5 日、大腿骨骨折で入院、そこで肺と腎臓の感染症を患い手術をした。 6 月 28 日帰天。タウバテの修道会のお墓に埋葬された。

ECHO

◇これからも福音を多くの人々にのべ伝えていけますよう祈っております。

（東京都　服部　栄子）

◇「きずな」いつもありがとうございます。

（福岡市　深堀　邦枝）

◇過酷な環境の中、常に明るく元気に福音のた

めに身を捧げておられるシスター方のお姿に感動しています。シスター方の存在は多くの方に勇気と希望と力を与えておられることと思います。これからもお体に気をつけて宣教に従事なさってください。主が、いつも共にいて下さいますように。

（栃木県　シトー会那須の聖母修道院）

◇貴重な情報をいつもありがとうございます。

（東京都　伊藤　雪枝）

◇すべてのお働きに感謝致します。目の前にある人々の顔、声、思い、彼らの中にともに在って深いなぐさめがそこにありますように。

（福岡市　森　由理）

◇佐々木神父様おめでとうございます。ご高齢と思われます。どうぞご自愛下さいませ。

（東京都　旧フマニタス慈善協会役員一同）

◇皆様の活動に励まされています。ありがとうございます。　（千葉県　寺田　公之）

◇井上信一さん（元運営委員）が逝去され、さびしい限りです。　（東京都　新井　孝利）

◇メリノール修道会の合原節子は８月初めに天国に召され、私、伊藤照子は東京の吉祥寺修道院におります。長らく御支援して下さってありがとうございました。

（東京メリノール修道院　伊藤　照子）

◇皆様のご健康をお祈りしております。

（東京都　山羽　啓子）

◇祈りのうちに応援しております。

（長崎県五島　お告げのマリア修道会福江）

◇シスター方の御健康を毎日お祈りしてます。僅かですが、お役立てください。

（東京都青梅市　鳥居　孝一）

◇皆様の日々の働きに主の豊かな祝福を祈っています。ありがとうございます。

（京都市　ヌヴェール相徳修道会）

◇主の平和、すべての人の上に主の祝福がありますように　（鹿児島県　伊地知　咲子）

◇いつもありがとうございます。皆様の上に神様の愛が豊かにありますように。寄付は次男の木嶋昭文へのクリスマスプレゼントです。

（東京都世田谷区　木嶋　えつ子）

数年ぶりの賑わい

波多野　真理子（運営委員）

開催の前日に沢山のテントを張り　机・台を出して準備しましたが、その夜から降り出した雨は当日朝にも全く止む気配はありません。急遽全ての出店をテラスや信徒ホールに移しての開催となりました。

「バザー」から「まつり」へと名前を変えて、今年は飲食も復活です。手作り品･寄贈品･クッキーやジャムのお店、野菜販売もあり、私はその一角、神父様の「酒蔵」の隣で我が家のあれこれを並べて「支援する会」として出店しました。友人や孫のおちびさんも一緒に売り子となり、最後にはほぼ完売しました。皆さんに当会の名前を少しは覚えて頂けたでしょうか。

美しいゴスペルグループのコンサートも聖堂で行われ、盛り沢山で実りある一日となりました。

帰国して早や半年

聖パウロ女子修道会

比護　キクエ（元ドイツ宣教）

早いもので日本へ帰国してからすでに半年が

過ぎました。その間私が何をしていたかと申しますと、管区会計のもと修道院の広大な庭の管理を任され、嬉々として５か月間を過ごさせてもらいました。小学生の時「１で働き２で眺め、３で気持ちよく帰りましょう」と言われた先生の言葉を思い出して、「自分の人生をこのように終えられたらどんなにに良いかしら」と思う日々でした。でも現実を見るとそう甘い夢にも浸っていられません。私が入会したころは40 名ほどいた志願者は、今はゼロ。 そのうえ、現在90 人いる姉妹の４分の３は後期高齢者で、日々何が起こっても不思議ではない状態です。前管区長から「健康であっても、病気であってもあなたの存在そのものが大切ですから、帰ってきてくれれば嬉しい」との言葉に勇気をもらい帰国してから半年。「主は本当に私に何を望んでおられるのかしら？」とたびたび考えます。40 年前、ドイツへ行く直前に参加した黙想で、「こんなに多くのドイツ人宣教者が日本におられるというのに、私がドイツへ行くということはどういう意味があるのかしら」という疑問を、黙想指導をしてくださった結城神父様にお話ししましたら、「修道会があなたを望む所は教会があなたを望むところ、教会があなたを望む所は神様があなたを望む所です。」とおっしゃいました。日本に帰化するほど日本を愛し、その生涯を日本の宣教のために捧げられた方のこの言葉を信じ、支えられ、勇気をいただいて過ごしたドイツでの 37 年間でした。主が現在の私に何を望んでおられるのかわかりませんが、ただ一つ私が判っていることは、命のある限り、死の瞬間まで修道会を通して私が頂いた使命、マスメディアによる福音宣教のためにこの命を捧げるということです。これからの私の宣教は、現在の多くの姉妹がそうであるように、10 年、20 年前のような「動」ではなく、「静」です。祈りと観想のうちに、そして存在そのものによって、新しいコミュニケーションメディアで働く方々のため、それによって侵される罪の償いのため、またこのメディアを通してもたらせられる福音のため、未来の新しい教会のために血の一滴までもお捧げできたら幸いです。

フィリピンより帰国して

善きサマリア人修道会

景山　ひろ

回りまわって漸く今年の４月、日本にいる私の手元に届いた「海外宣教者名簿 2021」を前に今、私は感謝の念にみちあふれております。

1990 年に、日本人２名の共同体がフィリピン、バコロドに設立されて以来、コロナ第５波の真最中に帰日するまで、30 余年の長期間、精神面、物質面にわたって貴会の皆様から貴重なご支援を戴き、本当に有難うございました。特に、「きずな」からは、同じ宣教者からのニュースを始め、海外短信、ECHO、連載等々、日本語に飢えている者にとって、真に貴重な栄養剤となり、大切に何度も味わっておりました。

私が最後の日本人でしたので寂しさは残りますが、今は、フィリピンのシスターが、素晴らしいパートナーズと一緒に、最初の極小シナビスの種を立派に育んでいることに安堵し、感謝しながら、後方支援に尽力しております。

慈しみの神様と皆様へ、言葉で言い尽くせない深い深い感謝を込めて、心からの御礼を申し上げます。皆様、本当に有難うございました。

追悼文

パウロ井上信一さんのご葬儀に参列して

諏訪　なほみ（運営委員、元「きずな」編集者）

去る 9 月 18 日に東京の多摩教会で、パウロ井上信一様のご葬儀が行われました。井上さんは奥様と共に、長らく「海外宣教者を支援する会」のかなめとして活動してくださいました。多くの援助申請の審議をしたことを思い出し、心からの感謝を申し上げました。

井上さんは大学卒業後、外務省勤務を経て石油会社に勤務され、ご家族と共にヨーロッパやアフリカの国々に赴任。特に、ザイール（現コンゴ民主共和国）での滞在経験をもとに、2007 年には**『モブツ・セセ・セコ物語』～世界を翻弄したアフリカの比類なき独裁者～**というドキュメンタリーを刊行されました（新風舎）。

私は「きずな（82 ～ 150 号）」の編集を担当していましたが、当時、日本から海外に派遣されていた宣教者は 350 名を超え、毎月世界各地からたくさんの郵便物が届きました。その中から「きずな」に掲載する記事を作りますが、井上さんは文字入力を引き受けてくださり、今も、本当に感謝しております。

井上さんは温厚で、誠実で、忍耐強いお人柄、その明るい笑顔はいつまでも皆さんの記憶に残っていることでしょう。教会から続く桜並木をたどり、井上さんも春には爛漫の桜をめでていらしたでしょう、と思いながら岐路につきました。

井上さん、これからもずっと「海外宣教者を支援する会」の活動を見守ってくださり、必要な知恵と力を注いでくださることを願っております。

感謝を込めて

牧野　ゆみ子（元運営委員）

シスター斎藤のご逝去を伺いまず心に浮かんだのは、早春にほころぶ紅白のしだれ梅や桜、山吹に彩られる修道院入り口のマリア様。そして暑い夏には涼しく厳しい冬には温かくしつらえられた発送作業のお部屋と「いらっしゃーい！」と明るい声で迎えて下さるシスターのお姿でした。6 月と 9 月の発送作業時には、汗ビッショリで修道院への坂道を上ってきた私たちに「ひと休み！ひと休み」と冷たい麦茶のサービス付き。それは 3 か月に 1 度実家に戻る娘を迎える母親のようでした。

机にきちんと準備された出来立ての「きずな」は、シスター斉藤や修道院の皆様が発送作業に寄せて下さる思いが伝わりました。アフリカや南米から一時帰国中のシスターへ声をかけ、作業を共に行いながら現地の報告を伺えるように気配りもなさいました。

大口を含め 3,000 部の「きずな」発送終了後のお茶も楽しい時間でした。「お庭のきんかんの砂糖漬け」や焼きすぎてセールに出せないクッキー等が話題と共に提供され盛り上がりました。シスターの楽しいお人柄の賜物だと思います。

運営委員・発送作業を「海外宣教者を支援する会」創立直後からご一緒した方は皆様が神様の元へ旅立たれました。あちらはさぞ賑やかなことでしょう。

ご冥福をお祈り申し上げます。

「宣教者のお話を聞く会」

日時：2023 年 9 月 16 日 土曜日
13 時 30 分～ 15 時 30 分
会場：東京六本木フランシスコ会修道院 1 階ホール
講演者：シスター 延　江　由美子（メディカル・ミッション・シスターズ）

「いのち綾なす」～万華鏡のようなインド北東部の文化と現実～（要約）

＜所属修道会について＞

メディカル・ミッション・シスターズ（MMS）は、オーストリアの女医、アンナ・デンゲルが医療で人々に奉仕する目的で 1925 年に USA のワシントン DC で立ちあげた。現在は医療だけでなく、SDGs に掲げられているような様々な課題の解決に向けて世界の各地で活躍している。日本人は私一人。2000 年にムンバイに着任し、2007 年からインド北東部で奉仕を続けている。

＜インドの概要＞

インドはいま人口が中国を抜いて世界一。人口の 60％以上が 20 歳代以下でエネルギーに溢れ、経済も大きく発展している。多民族・多言語・多宗教などあらゆる面で多様性にあふれた国。

＜インド北東部の文化と現実＞

インドの中でもとりわけ民族的、文化的に多様性に富みユニークなインド北東部は、皆さんが想像する「インド」とは全く異なる地域。数えきれない程の先住民族に加えてアッサム人、ネパール人、ベンガル人などが住む 8 つの州には、山岳地域、平野部、川など豊かな生活環境と自然が広がり、地域が少し変わるだけで民族や文化が異なり、まるで万華鏡を覗くような思い。今日はその中から、MMS が活動する 4 つの州についてお話する。

◆メガラヤ州

「雲の棲家」という意味で雨が多く、面積は長野県と同じくらい。大きく 3 つに分けられる地域（ガロヒルズ、カシヒルズ、ジャンティアヒルズ）にガロ、カシ、ラバなどの先住民族やベンガル人が暮らす。ガロとカシの人々はほとんどがクリスチャン。プロテスタントやバプティストが中心でカトリックは少数派だ。近年ムスリムの人口が急激に増加している。

◎ガロヒルズ…穏やかな田園風景が広がる地域。ここに住むガロの人々は女系社会であり姓名や財産は母系に引き継がれる。結婚により男性が女性の村に入り妻の家族の一員になる。独自の文字がなく歌と踊りで後世に文化や歴史を伝えてきた。行事ごとに民族衣装を着てみんなで歌と踊りを延々と続けて盛りあがる。主食は米。肉や魚を発酵させた食材を使ってガロ風に料理する。急増しているムスリムとのトラブルも起きている。

◎カシヒルズ…メガラヤ州都シロンがある地域。イギリスの植民地時代に高地で気候も良くイギリス人が多く駐留したことで、街は整備され英国を彷彿とさせる家が多い。住人のほとんどがカシの人で、ガロの人とは顔も異なり小柄。一家族一教派なので、家族の中で信仰がしっかりと育まれている。美しい女性が多く早く結婚することもあり子沢山のビッグファミリーが多い。寒くてお米も収穫できない貧しい地域だが、家族を支えるために男女問わず実に良く働く。

◆アッサム州

この地域はとりわけ多民族で、ボド、アディヴァシ、カルビ、アッサム、ベンガルなど様々な人がいることに加え、民族の異なる両親から生まれる子供も増えてきていて複雑化している。多民族ゆえに言語も多様だが、文字があるのはアッサム語だけ。子どもたちはほとんどがマルチリンガル。MMS はここでも教育支援や学童保育のような活動をしている。

ここでもマイノリティへの弾圧は深刻な問題の一つだ。

◆ナガランド州

ナガランドには「州」と「居住区」という二つの実態がある。居住区にはアルナチャル・ブラデシュ州、ミャンマー、マニプール州、アッサム州の一部も含まれる。ナガ民族は 30 以上の部族からなる。モンゴロイドなので顔つきは日本人にとてもよく似ている。もともと精霊信仰だったが今や 90% 以上がキリスト教徒だ。太平洋戦争末期にはインパール作戦のために日本軍はここまで侵攻してきた。今でも日本兵の記憶は語り継がれている。またイギリスによる植民地、インドによる「占領」などの歴史もあり、大国によって分断された民族だ。近年物凄い勢いで進む開発やスマホの普及などで、ナガ社会は急速に変化している。

＜まとめ＞

MMS がこの地で活動を開始して 50 年。共同体には様々な文化的背景を持つシスターたちがいる。分断された今の世界に癒しをもたらすグローバルな共同体となれるよう、心を合わせて努力を続けている。命がつながりあって美しい模様を作る「いのち綾なす」世界の実現のためにこれからも祈り精進していきたい。

最後に：◆マニプール州では今年の 2 月から悲惨な民族紛争が続いている。クリスチャンが多いクキ族の人々の村や教会が焼かれ夥しい犠牲者が出ているが、日本ではほとんど報道されていない。インド国内のカトリック教会は団結して祈り支援している。MMS もこの夏、ICWN（インド女性クリスチャン運動）や国連の女子修道者による社会正義連合の組織が呼びかけたオンラインの祈りに参加した。どうか皆さんにもお祈りとご支援を賜りたいと願っている。

クリスマス特集

招かれざるひと

海外宣教者を支援する会 会長　フランシスコ会　村　上　芳　隆 ofm

35 年以上前の出来事を思い出しました。当時わたしは、北海道のオホーツク海側にある北見市で小教区司牧の仕事をしていました。それは 11 月のある日、朝 4 時頃の事です。玄関の戸を叩く大きな音で目が覚めました。玄関に出てみると、一人の若い男性がドアの前に座り込んでいました。わたしは「どうしましたか」と声を掛けました。すると、彼は「ここはどこですか」とか、「寒い」と言うだけでした。注意深く彼の様子を見ていると、酔っ払いのようでした。しばらくすると酔いがさめてきたらしく、「お騒がせしてすみません」と謝ってきました。わたしは「どこにお住まいですか」と彼に聞きました。彼は「△〇町です」と答えたので、そこまで車で送る事にしました。5 分ほど行くと、彼は「このあたりで降ろしてください」と懇願しました。自分の家を特定されたくないのだろうと思い、彼を降ろしてそのまま教会に戻りました。

これは、ただの酔っぱらいの訪問であり、早起きさせられたというだけのことです。大きな迷惑ではありません。しかし、教会で祝うクリスマス聖劇の一コマに結び付けて想像を膨らませてみま

した。聖劇では、身重のマリアとヨゼフがベトレヘムに到着しても、宿屋が満員で泊まるところがなく、馬小屋しか空いていなかった、というシナリオが定番です。ベトレヘムのような小さな村に宿屋があったのかどうかわかりません。生まれた幼子を飼い葉桶に寝かせたという福音書から馬小屋という場面設定が生まれたのでしょう。

マリアとヨゼフは人口調査登録のために、いわば本籍地に戻ったと推察できます。二人は、当時の社会的要請・義務に対応する旅をしただけです。とすれば、彼らは決して招かれざる客ではありません。おそらく親せきの家に泊まったが、整った部屋がなくて使われていない飼い葉桶が収納されている場所しか空いていなかったとも考えられます。

現代日本には、多くの若い外国人たちが生活し、働いています。留学生ではなく、外国人技能実習制度という法律に基づいて、労働力として来日している若者たちです。この制度が始まったのは1990年代の初めころです。この制度は大きな問題をはらんでいると言われています。つまり、「人身売買」的現実があると指摘されているのです。それで、この法律は今年で廃止されて、来年度からは新しい法制度に代わることになっています。

彼らは、招かれざる人たちではなく、日本社会の現実的要請と本国での事情とが合致したから存在しています。つまり、双方の必要性が満たされた故に、彼らは来日しているのです。若い外国人実習生たちが直面している様々な困難と関わることは容易ではありません。「難民移住移動」というテーマが、国際的に大きな課題としてあります。この課題に日本社会も直面しているのです。マリアとヨセフそして、幼子イエスは後日、エジプトに逃れていわば難民になります。クリスマスを迎える時期、この現実に真剣に向き合うのは相応しい事ではないでしょうか。

連載 「海外宣教」

わたしたちの生活に寄り添うイエスのご降誕

～文化に根付いたクリスマスの光景を思い起こしながら～

マリオ　山野内 倫 昭　さいたま教区司教

わたしのクリスマス体験

わたしたちには皆、人生の中で祝ったクリスマスの思い出があります。わたしが幼少期に過ごした、日本の故郷での思い出をお話ししましょう。わたしの人生は日本からアルゼンチンへの旅でした。そして33年の時を経て、日本に永住するために（そう信じています）戻ってきました。

クリスマスには共通して、大天使ガブリエルの受胎告知、おとめマリアのエリザベト訪問、ベツレヘムへの旅、ご降誕、羊飼いたちの幼子イエス初訪問、東方の占星術の学者たちによる礼拝、エジプト避難、といった場面があります。

最初の舞台、日本での幼少期

わたしの最初の舞台は、大分県佐伯市の小さな小教区で、1955年12月8日に生まれました（現在67歳）。8歳半の時、両親と4人の幼いきょうだいとともにアルゼンチンに移住しました。

佐伯でのクリスマスといえば、何よりも、チェーザル・サッキ神父の司式で、畳の聖堂で夜遅くにささげられたミサを思い出します。彼は、九州と四国に挟まれた豊後水道の港町にこの教会を創立した、イタリア人サレジオ会士でした。

歌を練習した後、熱心に聖歌が歌われるミサでした。侍者であるわたしたちもまた、一生懸

命に奉仕し、素晴らしいものでした。ミサが終わると幼稚園に移動してごちそうを食べ、２時間ほど歌ったり、ちょっとした聖劇をしたりしました。一番印象に残っているのは、みんなにちょっとしたプレゼントが当たるクリスマスのくじです。

いつも何かが当たって、ごちそうを準備したカテキスタの人がプレゼントの意味について簡単な説明をしてくれました（わたしたちは貧しかったので、プレゼントはとても質素なものでした）。ある年、わたしはカテキスタの熱心な説明の後、黒鉛筆と消しゴムをもらいました。それでこのことを覚えています。確か、神様は右手に鉛筆と消しゴムを持ち、わたしたちの歴史を書いておられるのだと言っていたと思います。神様もまた、わたしたちにとって最善の道をつねに考え、導いてくださっているのです。神様にとっても、わたしたち一人ひとりの歴史の歩みを、一歩一歩創造してくださることは簡単ではありません。

もう一つ思い出すのは、その翌年、両親の仕事の都合で他県に引っ越さなければならなくなった侍者の友だちのことです。「もういくつ寝るとお正月……」という歌で、感謝しながらサヨナラしました。

彼のおかげで、この歌を歌いながら歌詞を覚えました。この歌は、男子のこま遊びのような、日本社会のとても伝統的なものへの郷愁を伝えていて、その素朴さが大好きです。

アルゼンチンのクリスマス

Los Reyes Magos（占星術の学者たち）

３人の占星術の学者たちは、すでに到着しました
メルキオール、ガスパール、肌の黒いバルタザール
彼らはあなたに糖蜜と蜂蜜を持ってきます
王家のアルパカの白いポンチョも

下男と女中は眠りにつき
メルキオール、ガスパール、バルタザールは
プレゼントを置いていきます
明日、目覚めたときに遊ぶために

幼子イエスはとても感謝し
蜂蜜を食べ、ポンチョにくるまって
そして微笑んでいました
真夜中、太陽が輝きました

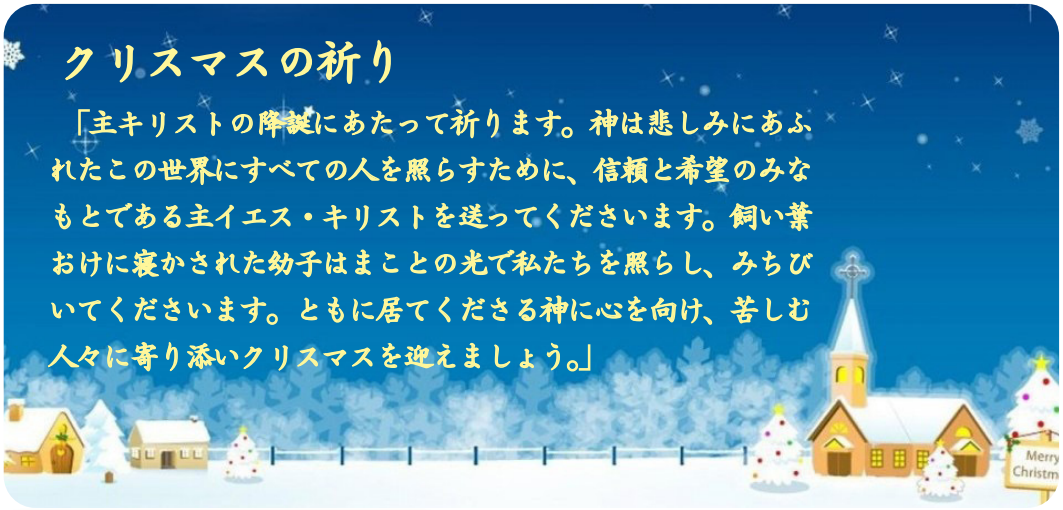
ご降誕を描いた 13 世紀後半の祭壇画（スペイン・カタルーニャ地方、バル・デ・ボイ）

幼子にもたらされた贈り物は、伝統にしたがった「黄金、乳香、没薬」（マタイ 2･11）ではなく、「糖蜜と蜂蜜」（熟した黒ぶどうの果汁から作られる中世のお菓子）であり、寒さをしのぐコートは、「王家のアルパカの白いポンチョ」（これは彼が王であることを預言しています）でした。幼子は感謝して贈り物を受け取り、蜂蜜を食べ、王家のアルパカのポンチョに身を包みました。

この歌に続いて、アルゼンチンの習慣では、１月６日の占星術の学者たちの日に、親は子どもたちにとても特別な贈り物をします。それはクリスマスよりも大きく、しかしお金をあげるお年玉とは異なるものです。その習慣では、１月５日の夜、子どもたちは学者たちのラクダのために水と食料を用意し、夜明けまで、その年のサプライズのプレゼントを見つけるのを待ちます。ある年、学者たち（両親）から馬をもらい、一流の騎手になった、あるアルゼンチン人宣教師を知っています。ここ日本で馬に乗ることはできませんでしたが、とくに日本での生活が困難な中南米からの信者の世話のために、大分から東京へと自分の車に乗っていました。

どうかわたしたちが、子どもの心でクリスマスを過ごし、幼子イエス、母マリア、聖ヨセフとともに、神の祝福を受けながら新たな年を迎えられますように。

皆さんが、素晴らしい新年を迎えられますように。どうかわたしたちが、諸民族へ派遣された宣教師たちと一致し、そしてわたしたち自身がいつも互いに結ばれて、つねに世界の平和の道具となりますように。 アーメン。



新しい支援者

堂野前 良子（東京都練馬区）　花田 永和（東京都品川区）　伊藤 雪枝（東京都世田谷区）
牛来 由佳（東京都江戸川区）　柳谷　豊（北海道苫小牧市）

事務局より

◎１年が過ぎ行くのは本当に早く今年も皆様のご支援に心から御礼を申し上げます。
◎世界のあちらこちらで未だに戦争が繰り広げられ、私たちは常に停戦を祈り続けます。
◎もうすぐクリスマス、本年も宣教のためにクリスマス献金のご協力をお願い申し上げます。
◎ご家庭で眠る、未使用のはがきや切手がございましたらお送り下さい、通信費として大切に使用させて頂きます。
◎事務所は火曜日・金曜日 10：00 ～ 16：00 オープンしております。
◎本年の冬休みは 12 月 23 日～１月４日までです。事務所をクローズ致します。

発行：日本カトリック海外宣教者を支援する会

〒106－0032　東京都港区六本木４－２－39
Tel. 03-5770-8753　Fax. 03-5770-8754
e-mail　kaigai-senkyo@cronos.ocn.ne.jp　URL　http://www.kaigai-senkyo.jp
・銀行振替口座　みずほ銀行高田馬場支店　普通　２０８４１１２
日本カトリック海外宣教者を支援する会
・郵便振替口座　００１４０－５－６７８８１　海外宣教者を支援する会